

## 「出題の意図」

選抜区分	2026年度（選抜区分：一般選抜 後期日程） 文学部 比較文化学科（科目名：小論文）
<p><b>1. 出題の背景・求める能力</b></p> <p><b>【出題の背景】</b></p> <p>後期日程の小論文は、筒井清輝『人権と国家——理念の力と国際政治の現実』（岩波新書、2022年）から一部を抜粋して出題しました。筒井はリン・ハントの議論に拠りながら、普遍的人権思想の発展には書簡体小説の流行が多大な影響を与えていたとする興味深い見解を紹介しています。小説と人権という一見遠く関係がなさそうな事柄のあいだに実は深い関係があったことを見出す、知的なおもしろさを感じられる内容だと思います。また、小説をはじめとした創作物が社会にこれほどまで大きな影響を与えることに驚かれた方もいるかもしれません。社会との関係から文化を考える視点にも興味を持ってもらえたらと思います。</p> <p><b>【求める能力】</b></p> <p>問1の要約では、問題文の内容について記述の流れを単に追うのではなく、その構成に注意しながら論理の展開を的確に把握して理解する力を問うています。また、理解した内容を限られた分量のなかで他者に分かりやすく伝える文章表現力を持ち合わせているかも見ています。</p> <p>問2は、任意の作品を分析して自分の意見を述べる問題です。問題文の記述を踏まえて論点を的確に把握し、その点から取り上げた作品について論理的に思考し評価する力、その評価に至る過程を根拠を挙げながら分かりやすく表現する力を問うています。また、論点に即した適切な作品の例を挙げられているかどうかも見えています。ぜひ、普段から文学・映画などの作品に関心を持って、読んだり鑑賞したりした作品についてさまざまな面から考えてみてください。</p> <p><b>2. 解法（解説）</b></p> <p>問1</p> <p>下線部の結果をもたらすまでの、他者への共感の拡大過程について説明するよう求められています。「下線部の結果」とは〈人権運動が国境を越えて広がったこと〉ですから、逆に言えばそれまで人権運動は国境を越えることができなかったといえます。</p> <p>以前の状態に該当する部分を本文から探すと、第三段落冒頭に「国民意識の形成は……他の国や他の宗教集団に対する共感を醸成するものではなかった」とあります。第一段落に、多くの人間は家族に共感する能力は持っていることと述べられていることを踏まえると、①家族など身近な集団→②国民の範囲→③国境を越える範囲という段階を踏んで共感の拡大してきたと整理することができます。以上の過程を、そうした変化が生じた要因を踏まえて分かりやすい文章にまとめます。</p> <p>なお、②は内集団の拡大、③は外集団への拡大に対応します。この二種の共感能力の拡大（内集団の拡大／外集団への拡大）の相違を押さえて、拡大過程を段階的に説明できているかどうかの評価の重要なポイントです。また、内集団の拡大による共感の範囲にとどまり、外集団まで共感の範囲が拡大することによってはじめて国境を越えた運動が可能となったという点が押さえられているかどうかポイントです。</p>	

## 問2

自らが読んだり鑑賞したりした作品について、他者への共感が深まる可能性と限界という点から分析し評価することが求められています。取り上げる作品は、小説のほか映画・マンガ・絵画・歌など何でもかまいません。なお、解答者の思想・信条は採点の要素とはなりません。

解答は以下の三点を満たす必要があります。

- ①他者への共感の深まりを考察するにふさわしい要素を含んだ作品を具体例として挙げること。
- ②他者への共感が深まる可能性と限界の両面について考察すること。
- ③考察は作品を根拠として論理的になされていること。

まず、具体例として他者への共感を考察するにふさわしい要素を含んだ作品を挙げる必要があります。問題文を参考にすると、内集団の拡大を想像させる、あるいは社会集団の壁を超えた人間関係を想像させる作品が思い浮かべられるでしょう。

その作品によって他者への共感が深まる可能性と限界についてどのように考察されているかは重要なポイントです。その際、共感が深まるとは、単に感情移入できることではない点に注意してください。集団間の壁を超えるイメージを喚起するなど、作品が共感能力そのものを高める契機となりうることを示す必要があります。

また、主張の根拠が作品の中に求められている答案を高く評価します。例えば、作品を鑑賞するだけでは他者を理解することはできないとして、作品の内容ではなく創作物一般の有する限界性を指摘したくなるかもしれません。しかし、小説を通して「自分がしたことのない経験に思いを馳せて感じる共感」（問題文第1段落）を培ったとする問題文の論旨を踏まえれば、人が容易に体験できない事柄にも創作物だからこそ力を発揮する余地があることに思い至るでしょう。したがって、取り上げた作品ではそのためにどのような仕組みが用意されているか、それはどう評価できるか／できないかを論じることが求められます。なお、解答例では触れていませんが、問題文ではナラティブ構成による影響が論じられていますので、ストーリーだけではなくナラティブ構成に着目した考察も歓迎されます。